

# 大学評価・学位授与機構 が実施する 教育研究の状況の評価

教育研究評価に関する基本的事項  
各国立大学法人が作成する実績報告書  
機構の評価プロセス

平成19年1月26日

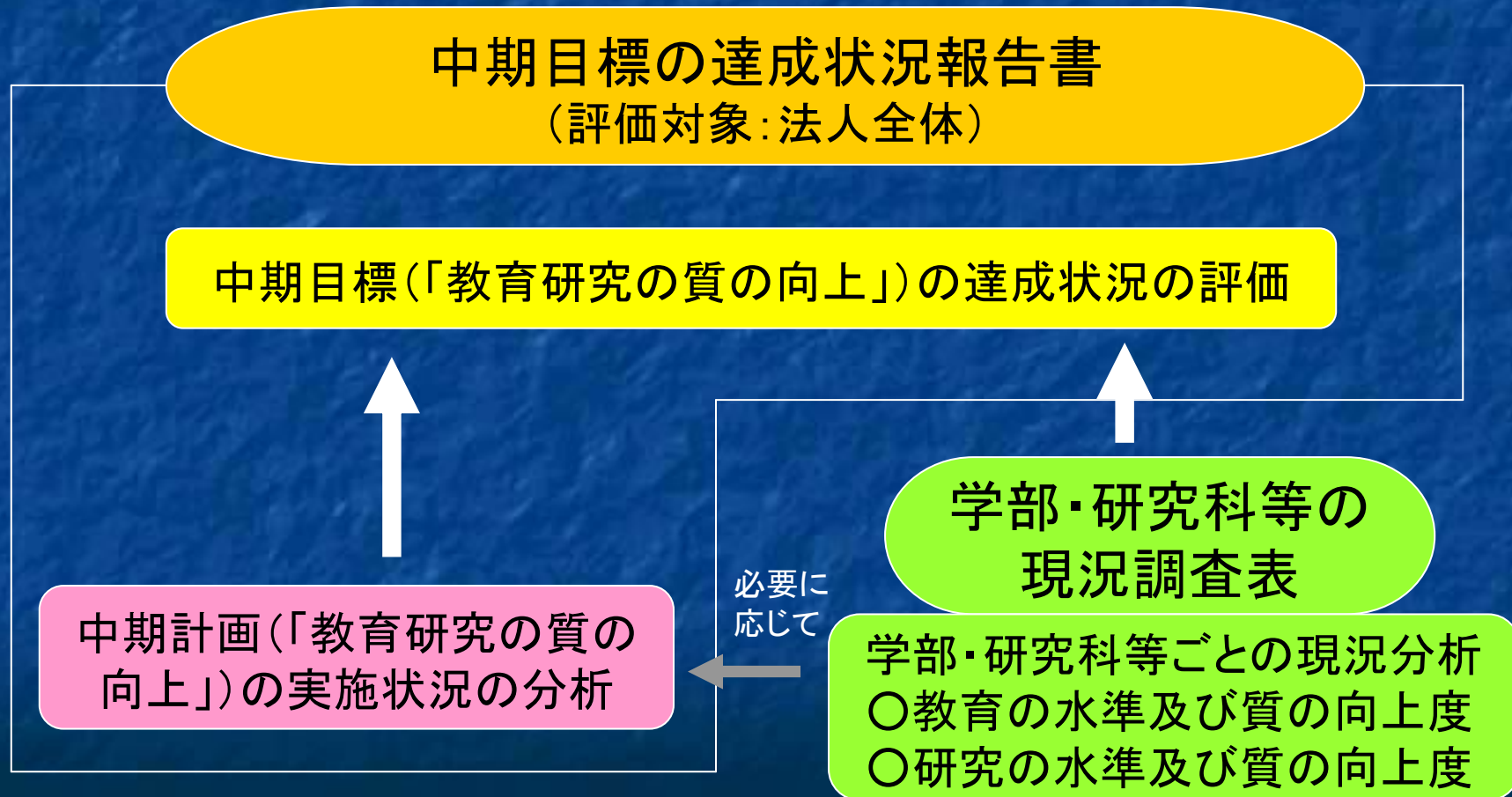
# 評価の基本方針

- 教育研究の質の向上と個性の伸長に向けた、各法人の主体的な取組を支援・促進する。
- 評価の透明性・公正性を確保し、説明責任を果たす。
- 各法人の自己評価に基づく。

# 評価の内容

- 法人評価委員会が各法人ごとに定める**教育研究組織**(以下「学部・研究科等」という)の現況分析 — 学部・研究科等における教育研究の水準と質の向上度を分析することにより把握する。
- **中期目標の達成状況** — 法人全体を対象とし、教育研究に関連する中期目標および中期計画の実施状況を分析することにより把握する。上記の現況分析結果も参照する。

# 教育研究評価に係る 実績報告書の構成



# 学部・研究科等の現況分析

## (1) 教育研究の水準の判断

- 教育水準評価と研究水準評価を実施する。
- 機構の定める分析項目に関する事項等进行分析し、その判定結果を基に、各分析項目ごとに4段階で水準を判定する。
- 各学部・研究科等の目的や方向性等、それぞれの特色に応じた評価を実施する。
- 大学共同利用機関の研究水準判定に際しては、共同利用による成果も含めて判定する。

# 学部・研究科等の現況分析

## (2) 教育研究の質の向上度の判断

- 評価時点での教育研究水準と、法人化時点での水準の比較により導き出される向上度を「質の向上度」とみなす。
- 法人化時点の水準評価がなされていない現状では、評価時点での水準に至るまでの具体的な改善・向上事例を分析することで、質の向上度を判断する。



# 教育研究水準の分析項目

- 教育水準

- 「教育内容・方法」、「教育成果」という二つの視点から分析項目を定める。
- 基礎資料は、①教育活動状況、②客観的資料、③各大学等で適切と判断したデータとする。

- 研究水準

- 「研究活動状況」、「研究成果」という二つの視点から分析項目を定める。
- 基礎資料は、①当該組織を代表する優れた研究活動実績、②当該組織が重点的に取り組んだ研究、③活性度を示す客観的なデータ、④各大学等で適切と判断したデータとする。

# 教育の現況に関する 分析項目と基本的な観点

分析項目	基本的な観点
①教育の実施体制	<ul style="list-style-type: none"><li>○基本的組織の編成</li><li>○教育内容、教育方法の改善・向上に向けて取り組む体制</li></ul>
②教育内容	<ul style="list-style-type: none"><li>○教育課程の編成</li><li>○学生や社会等からの要請への対応</li></ul>
③教育方法	<ul style="list-style-type: none"><li>○授業形態の組み合わせと学習指導法の工夫</li><li>○主体的な学習を促す取組</li></ul>
④学業の成果	<ul style="list-style-type: none"><li>○学生が身につけた学力や資質・能力</li><li>○学業の成果に関する学生の評価</li></ul>
⑤進路・就職の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>○卒業(修了)後の進路の状況</li><li>○関係者からの評価</li></ul>



# 現況調査表(教育)の構成

(1) 学部・研究科等の目的と特徴の記載

(2) 分析項目ごとの教育水準の判断

① 観点ごとの分析

② 分析項目ごとの水準の判断

※ 水準は、関係者の「期待に応えているか」という基準で判断する。関係者とは、当該学部・研究科等に関心を持つ人々を指す。具体的には、在校生・受験生及びその家族、卒業(修了)生、卒業(修了)生の雇用者、当該学部・研究科等が関係する地域社会等が想定される。具体的には、各大学等で判断する。

(3) 質の向上度の判断

# 研究の現況に関する 分析項目と基本的な観点

分析項目	基本的な観点
①研究活動の状況	○研究活動の実施状況 ○共同利用を目的とする組織における 共同利用・共同研究の状況
②研究成果の状況	○研究成果の状況 ○共同利用を目的とする組織における 共同利用・共同研究の成果の状況

# 現況調査表（研究）の構成

(1) 学部・研究科等の目的と特徴の記載

(2) 分析項目ごとの研究水準の判断

① 観点ごとの分析

② 分析項目ごとの水準の判断

※ 水準の判断基準は、教育水準と同じ。なお、研究水準での関係者は学術面では学界、社会・経済・文化面では地域社会等が想定される。具体的には、各大学等で判断する。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」の資料として示す組織を代表する優れた研究業績の説明書等の作成

(3) 質の向上度の判断



# 学部・研究科等を代表する優れた 研究業績の選定に当たっての留意点

- 学部・研究科等の組織としての研究成果を評価するもので、教員個人の研究成果を評価するものではない。
- 選定に当たっては、第三者による評価結果や客観的指標等の根拠資料に基づいて、目的に照らして組織を代表する優れた研究業績として相応しいものを厳選する。
- 各学部・研究科等は、十分な根拠に基づいて、上位二つの水準に該当する業績を厳選し、自己評価能力を問われることのないように留意する。

# 研究業績判断の方法

- 学部・研究科等の研究目的に照らして、当該分野において通常の水準に達している業績を「相応の水準」(B)と判断する。
- その上で、それを上回る業績について、第三者による評価結果や客観的指標等の根拠資料に基づいて、「優秀な水準」(S)、さらに「卓越した水準」(SS)を判断する。
- 分析項目Ⅱ「研究成果の状況」の分析の根拠資料として、SS および S に該当する業績の説明書を作成する。



# 中期目標の達成状況評価

- 法人全体が、評価対象となる。
- 評価に当たっては、定量的・外形的な視点だけでなく、教育研究の質の面を重視する。
- 中期計画の取組だけでなく、それが機能しているか、さらに教育研究の質が向上したか、高い質が維持されているか、という視点で評価する。

## 中期目標の達成状況の判断の導き方

中期目標	中期計画
(前文)大学の基本的な目標	
I 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織 1 中期目標の期間 2 教育研究上の基本組織	
II 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  <b>1 教育に関する目標 (大項目)</b> (1)教育の成果に関する目標(中項目・段階式) ○世界の第一線で活躍できる人材の育成を目指す (小項目・段階式) ○高度専門職業人の育成を目指す(同上) (2)教育内容等に関する目標(中項目・段階式) (3)教育の実施体制等に関する目標(同上) (4)学生への支援に関する目標(同上)  <b>2 研究に関する目標 (大項目)</b> (1)研究水準及び研究の成果に関する目標 (中項目・段階式) (2)研究実施体制等の整備に関する目標(同上)	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置  <b>1 教育に関する目標を達成するための措置</b> (1)教育の成果に関する目標を達成するための措置 ○ 具体的な措置A (実施状況の分析) ○ 具体的な措置B (実施状況の分析) ○ 具体的な措置C (実施状況の分析) (2)教育内容等に関する目標を達成するための措置 (3)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 (4)学生への支援に関する目標を達成するための措置  <b>2 研究に関する目標を達成するための措置</b> (1)研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置 (2)研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置

# 中期目標の達成状況評価の方法

- 中期目標の達成状況は、中期計画の実施状況を分析し、小項目、中項目ごとに4段階で判断する。その際、学部・研究科等の現況調査表の分析結果も参照する。
- 中期目標・中期計画に記載がなくても、目標に即して顕著な成果が上がっていると判断される取組は特記する。

# 機構における 教育研究評価の実施体制

国立大学教育研究評価委員会

運営小委員会

中期目標達成状況判定会議  
(チーム編成案) 大規模・中規模・教育学系……

学部・研究科等現況分析部会  
(部会編成案) 人文科学・経済学……

研究業績水準判定組織  
(専門部会案) 情報学・神経科学……

# 中期目標の達成状況に関する 評価結果の表し方

- 評価結果は、法人単位で示す。
- 中期目標の項目ごとに5段階で示し、その判断理由を記述する。
- 優れた点、改善を要する点、特色ある点を記述する。



# 学部・研究科等の現況分析結果の 表し方

- 教育水準および質の向上度評価
  - 評価結果は、学部・研究科等単位で示す。
  - 教育水準については、活動および成果の観点から機構が設定する分析項目ごとに、評価時点における状況を4段階で示し、判断理由を記述する。
  - 法人化時点と評価時点の水準の比較により導き出した質の向上度を3段階で示し、注目すべき質の向上を指摘する。
- 研究水準および質の向上度評価
  - 評価結果は、学部・研究科等単位で示す。表し方は、上記に準ずる。